

ビジネス基礎「資金調達」ワークシート

1. 【～復習～】ビジネスに必要な資金

(運転資金)	企業が日々のビジネスを行うのに必要な資金 例：家賃・水道光熱費・人件費・商品の仕入れ費用など
(設備資金)	企業が設備の購入をするときに必要な資金 例：工事費・物件取得費・機械購入費・備品購入費など

よって、

☆資金とは「会社の血液」である！

※資金がうまく回らなければ、企業は病気になり、利益を生み出す力を失い、やがては衰退を迎える。

2. 資金調達の方法

まず、資金調達が必要な時を考えよう。

- ① (開業時)
- ② (会社が軌道に乗り始めた時)
- ③ (会社が低迷した時)

資金調達の方法	メリット	デメリット
金融機関（銀行）	低金利（高額融資になるほど金利が安くなる） 長期融資が可能	審査が厳しく、保証人や担保が必要 開業融資は難しい 融資までに時間がかかる
社債の発行	多数の投資家から資金が調達可能 長期融資 償還期限・利息を自由に決められる	償還資金に対する社債管理者を置くなど自己管理が必要 発行に手数料がかかる
株式の発行	返済義務がない 広く資金を集められる	実績や信用がないと出資者が少ない 株主の経営者に対する厳しい目がある 経営権を奪われる可能性がある
日本政策金融公庫	政府出資の政府系金融機関金融 低利（約3.7%～4%）・固定金利・ 長期融資・無担保・保証人不要	開業資金総額の1/3以上の自己資金が必要
ビジネスエンジェル	投資家のお金で勝負できる 失敗しても投資家から責任を追究されない	儲かった時の報酬や配当で投資家と争議となることがある ※事前に決めておく必要がある
自己資金 親族からの借り入れ	返済する必要がなかったり、利息がかからなかったりする 金融機関からの借入よりも借入時も返済時もゆるやかな場合が多い	資金に限られる 人間関係を悪くする可能性がある

☆スティーブ・ジョブズ（アップル社）の起業・経営から資金調達を考えよう！

【経歴】

- ・ 1955年2月24日生、2011年10月5日死去
- ・ アップル社の創業者。前CEO（最高経営責任者）
- ・ 1976年に世界初の商用パーソナル・コンピュータを量産化（Apple I）
- ・ Mac(Macintosh)により、Windows PC と異なる独自のパソコンの開発・販売。
- ・ 2000年以降、iTunes, iPod, iPhone, iPad によって新しい電子機器の世界を創出。

《場面①》起業前の資金調達方法について考えよう。

補足：高校生の時に出会った、スティーブ・ウォズニアクと共に起業した。

自分の考え	
実際の調達方法	ジョブズは自分の車（ワーゲンバス）を売り、ウォズはHPのプログラミング電卓を売り現金を得た。



- ◇この資金で二人は最初のパーソナル・コンピュータ「Apple I」を作り、1台666.66ドル（この時代1ドル=約300円なので日本円で約20万円）の価格で販売し、約200台売れた。これが元手となった。（約20万円×200台=約4,000万円）



《場面②》起業後の資金調達方法について考えよう。

自分の考え	
実際の調達方法	まずは多くのビジネスエンジェルを頼って訪問をし、1人の投資家から92,000ドル（約2,800万円）の投資を受ける。 1980年、株式公開をし、2億ドルの巨額を手にした。



- ◇1984年に Macintosh を発売したものの、アップル社は需要予測を誤って過剰在庫を抱えてしまい、同年初の赤字を計上し、従業員削減を余儀なくされた。これにより、1985年に「アップル社の経営を混乱させているのはジョブズだ」と考えるようになった当時の社長と取締役会がジョブズを追放した。ジョブズはその後、自力でコンピュータメーカーの NeXT 社を設立した。



- ◇1997年、アップル社はジョブズの NeXT 社を買収し、ジョブズをアップル社に復帰させた。そして、業績不振だったアップル社の立て直しのため取締役会はジョブズをCEOに就任させた。



- ◇2001年に iPod を発売。爆発的にヒットする。さらに、iPhone や iPad を発売し、2011年には時価総額が世界第2位の企業にまで成長した。
2011年10月5日に56歳で死去。